

タイトル：温州みかん高畝栽培「大津四号」の夏季せん定による安定生産技術

[要約]

高畝栽培の「大津四号」若齢樹において、7月20日頃に樹冠容積1m³当たり15枝程度の2年生枝を対象に、夏季せん定を行うと、せん定部位から夏枝が多数発生し、良好な結果母枝となる。この結果、処理翌年の果実品質は向上し、収量が増加するため、高品質果実の安定生産技術として有効である。香川県農業試験場府中分場・栽培担当

[連絡先] 0877-48-0731

[部会名] 果樹

[専門] 栽培

[対象] 果樹類

[分類] 指導

[背景・ねらい]

温州みかんの高畝栽培では、「大津四号」を始めとした高糖系温州の導入が進められている。しかし、高畝栽培された「大津四号」の若齢樹は、隔年結果が著しく、早期枝別部分全摘果を実施してもその効果が不安定になりやすい。そこで、枝別交互結実のための夏季せん定の適期について検討を行い、高品質果実の連年安定生産が可能な生産体系を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 高畝栽培の「大津四号」若齢樹において、7月20日から8月20日までに、樹冠容積1m³当たり15枝程度の2年生枝に予備枝せん定を実施すると、処理枝には100節当たり20～30本程度の夏枝が発生する。いずれのせん定期でも、夏枝は、長さ7～10cm程度、葉数7枚程度に伸長するが、8月10日以降にせん定したものは完全に緑化完了しない（表1）。
2. 夏季せん定により発生した夏枝の着花数は、7月20日のせん定区で最も増加する（表2）。
3. 発生した夏枝に翌年着果した果実の品質は、7月20日のせん定区で、果実比重が向上し、浮皮の発生が少なくなる。着色程度、糖度計示度及びクエン酸濃度への影響は、処理年及び翌年とも特に認められない（表3）。
4. 夏季せん定翌年の収量は、7月20日及び8月1日のせん定区で無処理区よりも多くなるが、8月10日以降のせん定区では減少する。処理後2年間の累積収量では、7月20日区が最も多くなる（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 高畝栽培の「大津四号」等の強樹勢系統若齢樹において適用が可能であると考えられる。
2. 夏枝の生育及び翌年の着花程度は、気象条件、環境条件等により多少変動すると思われる。
3. せん定後、夏枝が緑化完了するまでの期間、ミカンハモグリガ及びアブラムシ類の適期防除に留意する。

表1 夏季せん定期の違いが夏枝の発生数と形質に及ぼす影響(1997)

試 験 区	100節当たり 発生夏枝数(本)	平均枝長 (cm)	平均葉数 (葉)	緑化完了期 (月/日)
7/20せん定区	29.2a	10.4	7.4	9/30
8/1せん定区	27.7a	7.3	6.9	10/6
8/10せん定区	22.1a	6.6	6.6	- ^z
8/20せん定区	20.0a	7.2	6.9	- ^z
無 処 理 区	0.4 b	15.4	11.6	- ^z
有 意 性 ^y	**	N.S.	N.S.	-

z：-は緑化完了に至らなかったことを示す。

y：ダンカンの多重検定により同一符号間には有意差がないことを示す。

表2 夏季せん定時期の違いが翌年の新梢数と着花数に及ぼす影響(1998)

試 験 区	前年夏葉100葉当たり			
	新梢数(本)	有葉花数(花)	直花数(花)	総花数(花)
7/20せん定区	31.3	6.2a	6.3	12.5a
8/1せん定区	38.3	5.6ab	6.1	11.7ab
8/10せん定区	28.8	0.6 b	0.2	0.9 b
8/20せん定区	35.0	0.1 b	0.3	0.4 b
有 意 性 ^z	N.S.	*	N.S.	*

z: ダンカンの多重検定により同一符号間には有意差がないことを示す。

表3 夏季せん定時期の違いが果実品質に及ぼす影響(1997~98)

試 験 区	着色程度(分)		果実比重		糖度計示度		クエン酸 ^z	
	1997年	1998年	1997年	1998年	1997年	1998年	1997年	1998年
7/20せん定区	6.9	8.7	0.74	0.84a	10.9	11.5	1.05	0.72
8/1せん定区	6.8	8.5	0.73	0.82 b	10.6	11.9	1.06	0.68
8/10せん定区	6.2	- ^y	0.72	- ^y	11.2	- ^y	1.25	- ^y
8/20せん定区	7.1	- ^y	0.73	- ^y	10.8	- ^y	1.08	- ^y
無 処 理 区	7.1	6.6	0.75	0.81 b	10.8	10.6	1.10	0.74
有 意 性 ^x	N.S.	N.S.	N.S.	**	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.

z: クエン酸濃度(%)を示す。y: 着果量がわずかであったため調査から除外した。

x: ダンカンの多重検定により同一符号間には有意差がないことを示す。

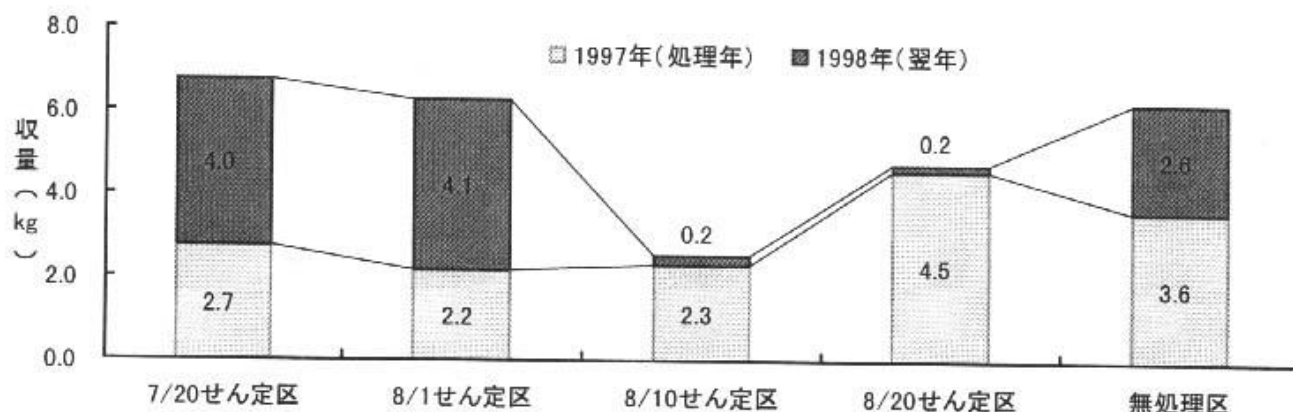


図1 夏季せん定時期の違いが1樹当たり収量に及ぼす影響(1997~98)

[その他]

研究課題名: 完熟カンキツの安定生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成10年度(平成4~12年)

研究担当者: 坂下 亨、森末文徳

発表論文等: なし